

日本小児保健協会  
平成 22 年度秋季総会議事録

日時：日時：平成 22 年 9 月 17 日（金）

時間：11：30～12：30

会場：朱鷺メッセ(新潟)

《総会の成立》

平成 22 年 9 月 17 日(金)、朱鷺メッセ(新潟)において、社員総数 223 名（理事 26 名、代議員 197 名）出席者数 56 名、うち委任状 129 通を加え社員の過半数以上に達したことを確認した上、議長に内山 聖会頭を選出し、議事録署名人に松石 豊次郎（福岡県）、渡辺 博（東京都）両氏を指名し開催した。

**報告事項**

**1. 平成 22 年度人事・事業実施報告**

\*平成 22 年度人事・事業実施状況に関して平岩常任理事より報告された。

(1) 会員数

	平成 21 年 3 月 31 日	平成 22 年 3 月 31 日	平成 22 年 7 月 31 日
会 員	4,865 名	4,934 名	4,823 名
	正会員 4,563 名 (内入会数 308 名)	正会員名 4,626 (内入会数 391 名)	正会員 4,524 名 (内入会数 246 名)
	団 体 302 団体	団体 308 団体	団体 299 団体
賛助会員	15 社	15 社	13 社

\*過年度年会費滞納者 108 名を定款に基づき退会とした。(平成 22 年 4 月)

(2) 人事について

1) 訃報

・田中 義人(外カ 引ト) 理事 平成 22 年 5 月 27 日 61 歳

2) 常任理事交代

- ・福永 慶隆 副会長・庶務担当常任理事→理事
- ・五十嵐 隆 財務担当常任理事→理事

- ・平岩 幹男 公益担当常任理事→公益法人担当、庶務担当常任理事兼任
- ・岡田 知雄 理事→財務担当常任理事就任

### 3) 代議員

- (選任) 岡山県 小田 慈(オガ マグミ)  
 (交代) 山梨県 田中 均(タカ ヒトシ) → 相原 正男(アイハラ マサオ)

### 4) 支部長交代

(支部)	(旧)	(新)
栃木県	杉田 憲一(スギタ ケンイチ)	白石 裕比湖(シライシ ヒロヒコ)
埼玉県	峯 真人(ミネ マヒト)	平岩 幹男(ヒライワ ミキオ)
東京都	山口 規容子(ヤマグチ キヨコ)	庄司 順一(シヨウジ ジュンイチ)
鳥取県	笠置 綱清(カサギ ツナキヨ)	神崎 晋(カンザキ スム)

### 5) 委員会委員

1. 発育委員会委員長交代：田中 義人(タカ ヨシト) → 加藤 則子(カトウ ノリコ)
2. 予防接種・感染症委員会新任：菅原 美絵(カガハラ ミエ)
3. 小児救急の社会的サポートに関する委員会新任：栗原 玲子(クリハラ レイコ)
4. 編集委員会新任  
遠藤 数江(エントウ カズエ)、竹原 健二(タケハラ ケンジ)、栗原 玲子(クリハラ レイコ)
5. 研究助成賞選考委員  
平岩幹男(ヒライワ ミキオ)委員長、山崎嘉久(ヤマザキ ヨシヒサ)委員長代行、  
杉浦太一(スギウラ タイチ)、鳥居央子(トリイ ヒロコ)、谷村雅子(タムラ マサコ)、  
小林正子(コバヤシ マサコ)、鎌田尚子(カマタ ヒサコ)
6. 実践活動助成賞選考委員  
大西文子(オホシ フミコ)委員長、長嶋正實(ナガシマ マサミ)委員長代行、  
前田浩利(マエダ ヒロシ)、倉橋俊至(クラハシ トシユキ)、白石淑江(シライシ ヨシエ)、  
尾花由美子(オハナ ユミコ)、太田百合子(オオタ ユリコ)
7. 利益相反委員会 (COI)  
衛藤 隆(エトウ タカシ)委員長、上田友和(ウエダ トモカズ)副委員長、  
平岩幹男(ヒライワ ミキオ)、秋山千枝子(アキヤマ チエコ)
8. 研究倫理委員会  
平岩敬一(ヒライワ ケイイチ) (委員長)、上田友和(ウエダ トモカズ)副委員長、  
平岩幹男(ヒライワ ミキオ)、秋山千枝子(アキヤマ チエコ)

### 6) 外部団体委員

1. 日本医師会 乳幼児保健検討委員会委員就任 岡田知雄(オカダ トモオ)  
(敬称略)

(3) 役員会などの開催

全国理事・支部長会 1 回、常任理事会 3 回、編集委員会 3 回、予防接種・感染症委員会 2 回、小児救急の社会的サポートに関する委員会 1 回、学校保健委員会 4 回（講演会 2 回）、平成 22 年度乳幼児身体発育調査小委員会 1 回、平成 22 年度幼児健康度調査委員会 1 回、平成 22 年度幼児健康度調査委員会（実務者会議）2 回、を開催し本協会の事業遂行上必要な案件を協議、決定し運営している。

(平成 22 年 4 月からの実績)

(4) 日本小児科連絡協議会合同委員会

日本小児科学会・日本小児科医会（日本小児科連絡協議会）との合同で、日本小児科連絡協議会 3 回、合同委員会：「子どもをタバコの害から守る」合同委員会 2 回、自動車乗車中の子どもの安全推進合同委員会 1 回、子育て支援ハンドブック編集委員会 1 回を開催し、当協会の事業目的に沿った活動を行っている。

(5) 外部団体委員派遣

予防接種推進専門協議会（全体委員会）1 回、予防接種推進専門協議会（代表委員会）5 回、日本医師会 乳幼児保健検討委員会 1 回

(6) 平成 22 年度春季総会

平成 22 年 4 月 23 日(金)、岩手情報交流センター「アイーナ」(岩手)において、社員総数 225 名(理事 25 名、代議員 200 名)出席者数 45 名、うち委任状 113 通を加え社員の過半数以上に達したことを確認した上、議長に関口 進一郎氏を選出し、議事録署名人に河野陽一(千葉県)、掛江直子(東京都)両氏を指名し開催した。

下記の議案が承認された。

- 1)平成 21 年度事業報告
- 2)平成 21 年度収支決算および監査報告

(7) 日本小児保健学会の開催

第 57 回日本小児保健学会は、新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野 内山聖教授を会頭として、平成 22 年 9 月 16 日(木)・17 日(金)・18 日(土)の 3 日間。朱鷺メッセ(新潟)に於いて開催。

テーマ：「子ども達の未来を信じよう、そして、子ども達が夢を持てる社会に」

(8) 機関誌等の刊行

- ・「小児保健研究」現在 69 巻 4 号まで発刊した。

## (9) 講演会等の開催

### 1) 支部研修会開催助成

- ・「第 49 回岩手県小児保健学会」 岩手県
- ・「平成 22 年度奈良県小児保健研修会」 奈良県
- ・「第 27 回兵庫県小児保健協会総会・シンポジウム」 兵庫県
- ・「埼玉県小児保健協会第 73 回研究会」 埼玉県
- ・「平成 22 年度栃木県小児保健協会・研修会」 栃木県
- ・「平成 22 年度母子保健指導者研修会」 神奈川県

2) DENVERⅡーデンバー発達判定法ー判定技術養成講習会を平成 22 年 5 月 29 日（土）に和光堂 株式会社 東京支店会議室に於いて開催し、参加者は 48 名であった。

## (10) 小児保健セミナーの開催

1) 第 27 回小児保健セミナー「保育の問題をめぐって」を、平成 22 年 6 月 20 日（日）に国立成育医療センター講堂に於いて開催し、参加者数は 195 名であった。

## (11) 協会活動

1) 編集委員会、予防接種・感染症委員会、小児救急の社会的サポートに関する委員会、学校保健委員会、平成 22 年度乳幼児身体発育調査小委員会、平成 22 年度幼児健康度調査委員会、平成 22 年度幼児健康度調査委員会のそれぞれが本協会の目的のために活動している。

2) 4 月 14 日の中国青海地震へ義援金を拠出した。

## 2. 各委員会活動報告

\* 例年学会の際に開催されていた合同委員会は、秋季総会にて各委員会委員長より委員会報告をして頂くよう変更となった。下記の各委員長より報告された。

- ① 編集委員会（加藤忠明氏）
- ② 発育委員会（加藤 則子氏）
- ③ 平成22年度乳幼児身体発育調査小委員会（加藤 則子氏）
- ④ チャイルドシート検討委員会（服部 益治氏）
- ⑤ 事故予防検討会（原田正平氏）
- ⑥ 予防接種・感染症委員会（加藤 達夫氏）
- ⑦ 栄養委員会（加藤 則子氏）
- ⑧ 学校保健委員会（岡田 知雄氏）
- ⑨ 小児救急の社会的サポートに関する検討委員会（山崎 嘉久氏）

⑩ 平成22年度幼児健康度調査委員会（倉橋 俊至氏）

### 3. その他

\*平岩常任理事より報告された。

(1) 日本医師会と予防接種推進専門協議会の共催による、予防接種法の改正に向けた、署名活動を実施する

スローガン：「希望するすべてのこどもに予防接種を！」

(2) 市民公開講座実施予定

日時：平成23年1月29日（土）\*その後会場の都合で1月16日（日）に変更

会場：中小企業振興会館7階「メインホール」（愛知県名古屋市）

テーマ：「虐待を受けたこどもの問題」（予定）

## 審議事項

### 1. 事務所移転

\*平岩常任理事より、事務所移転について説明され、承認された。交通至便、会員の利用しやすい場所へ移転する。

（新宿区片町1-11 藤田ビル4階 → 文京区後楽1-1-5 第一馬上ビル9階）

### 2. 平成22年度修正予算(案)

\*平岩常任理事より平成22年度収支予算案が提案され、承認された。

（会議資料別紙 P.9）

### 3. 平成23年度事業計画（案）

\*平岩常任理事より下記の各計画案が提案され、承認された。

(1) 公益社団法人設立

これに伴って以下の点での改正が必要

（各種規程整備）

- ・ 事務総則・権限規定
- ・ 利益相反規定
- ・ 調査研究倫理規定
- ・ 会計規定
- ・ 会費規定
- ・ 旅費規定
- ・ 就業規定
- ・ 委員会規定
- ・ 小児保健奨励基金に関する規定

- ・ 定款の変更（内閣府の案に沿った変更が必要）
- ・ 会計様態の変更（決算時期の変更、規則の変更）
- ・ 支部の解消（支部との連結決算は事実上不可能。地方協会となる）
- ・ 総会時期の変更（現行の4月、9月に6月を追加）

4月：予算の決定、承認、6月：決算の承認、9月：事業計画の審議、執行部選出

- ・ これにともなって理事会、総会の様態の変更が必要になる

(現行は理事・支部長会、代議員会、総会。支部は地方協会になるので 理事会、総会の2部構成になる。各地方協会は協会長を代議員に選出)

- ・ 小児保健会館の建設基金の取り崩し
- ・ 理事会のより円滑な開催、会員からの意見の取り入れ

(2) 役員改選 選挙管理委員会設置

役員への利益相反規程 (COI) の適用、選出方法や年齢制限の検討も考える

(3) 日本小児保健協会学術集会開催

\* 下記の通り決定し、承認され、大西文子会頭より挨拶がなされた。

第58回日本小児保健協会学術集会は、藤田保健衛生大学医療科学部看護学科小児看護学 大西 文子 教授を会頭として、平成23年9月1日(木)2日(金)3日(土)の3日間。名古屋国際会議場(名古屋)に於いて開催する。

テーマ:「子どもの育ちを見守り、地域で暮らす子どもと家族にできること！」

(4) 出版事業

- 1) 「小児保健研究」を年内に6冊刊行する。平成23年1月発行の70巻1号よりA4判に変更する。表紙デザイン刷新予定
- 2) 第70巻記念増刊号発行 9月発行予定
- 3) 小児保健シリーズ発行
  - ・ 小児保健セミナー特集発行
  - ・ 平成22年度乳幼児身体発育調査結果発行  
(本年度実施研究のため発行は来年度以降になる可能性もある)
  - ・ 平成22年度幼児健康度調査結果発行  
(本年度実施研究のため発行は来年度以降になる可能性もある)

(5) 講演会等の開催

- 1) 各都道府県支部研修会開催助成
- 2) 市民公開講演会開催 2回
- 3) DENVERⅡーデンバー発達判定法講習会開催 2回
- 4) 電話相談員養成講習会 2回

(6) 教育普及の拡充 協会の事業として教育普及の拡充につとめる。

第28回小児保健セミナーは、平成23年6月19日(日)に開催する。

テーマ「小児保健と他科関連領域」、会場「ベルサール九段」(東京都九段下予定) 理事会、総会も同日行う予定。

(7) 協会活動の充実

協会活動助成（研究助成・実践活動助成）授賞者の決定および表彰を行う。

《委員会活動》

編集委員会、予防接種・感染症委員会、小児救急の社会的サポートに関する検討委員会、学校保健委員会、平成 22 年度乳幼児身体発育調査小委員会、平成 22 年度幼児健康度調査委員会、発育委員会、栄養委員会、事故予防検討会、チャイルドシート検討委員会

\*小児保健協会単独の委員会、小児科連絡協議会での委員会があり今後見直しも検討したい。

(8) 日本小児科連絡協議会合同委員会

- ・「子どもをタバコの害から守る」合同委員会
- ・予防接種推進専門協議会
- ・自動車乗車中の子どもの安全推進合同委員会
- ・「子育て支援ハンドブック」編集委員会
- ・小児保健法設立推進委員会
- ・子どもとメディア委員会

(9) 外部団体委員派遣

- ・日本医師会 乳幼児保健検討委員会
- ・予防接種推進専門協議会
- ・健やか親子 21 推進協議会

(10) 調査研究

- ・幼児健康度調査
- ・乳幼児身体発育調査

#### 4. 理事選任

\*中国ブロック理事に小田慈先生が推薦され、承認された。(田中義人理事の後任として)

#### 5. 平成 22 年度名誉会員の推薦

\*下記の 3 名が承認された。

東京都 鴨下 重彦 (カモタ シゲヒコ)

東京都 嶋田 和正 (シマダ カズマサ)

東京都 山本 光興 (ヤマモト ミツオキ)

(敬称略)

## 6. 第59回(平成24年)日本小児保健協会学術集会会頭について

\*下記の通り決定し、承認され、小田 慈会頭より挨拶がなされた。

会頭：岡山大学大学院保健学研究科 小田 慈 教授

日程：平成24年9月27日(木)～29日(土)

会場：岡山コンベンションセンター ママカリフォーラム

## 7. 協会活動助成について

\*平成22年度小児保健協会活動助成賞が下記の通り決定し、承認された。

《研究助成》

○星野 裕美(ホシノ ヒロミ)氏・他(東葛病院附属診療所小児科外来看護師)

「感染症マップの試み」

\*研究助成については、来年度より、小児保健研究に掲載された論文の中から推薦されることとなった。

《実践活動助成》

○猪股 弘明(イノマタ ヒロアキ)氏(特定非営利活動法人船橋子ども劇場)

「子育て応援メッセ in ふなばし」

○野中 路子(ノカ ミチ)氏(兵庫県立塚口病院小児科)

「ダウン症児の赤ちゃん体操教室」

○中野 照子(ナカノ テルコ)氏(障害児通所療育施設ひよこ教室)

「ダウン症候群を中心とする障害児と健常児の統合保育」

## 8. ロゴタイプ・シンボルマークについて

\*3月より募集開始。100名余の応募があり、平成22年度総会で決定する。機関誌の表紙などに活用する予定。常任理事会で推薦のあったデザインが決定、承認された。

平成22年 月 日

特例社団法人 日本小児保健協会

議 長 内山 聖 (印)

議事録署名人 松石 豊次郎 (印)

議事録署名人 渡辺 博 (印)